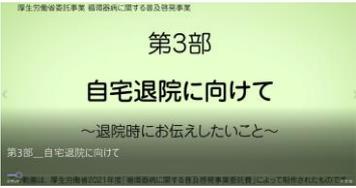
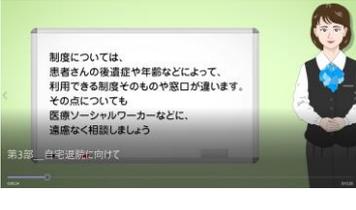
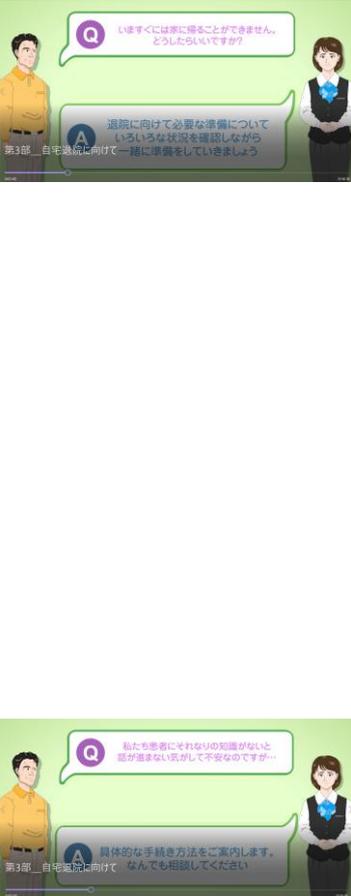
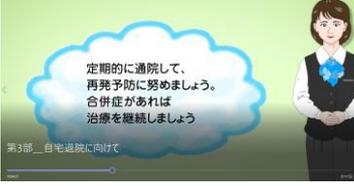
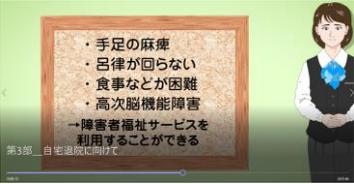
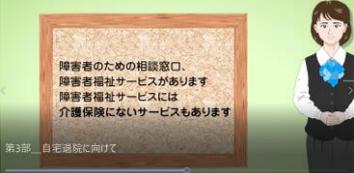
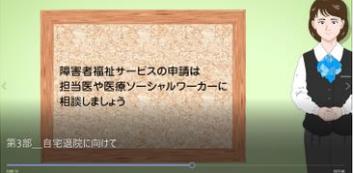
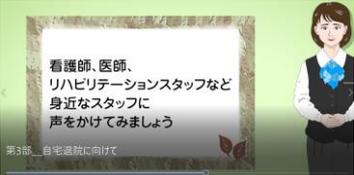
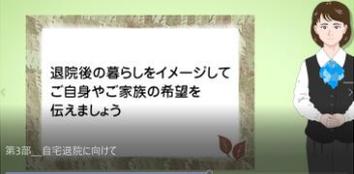


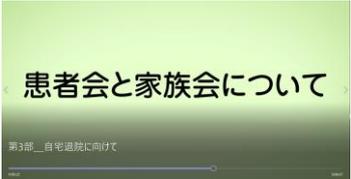
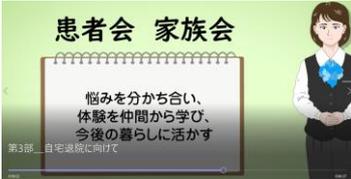
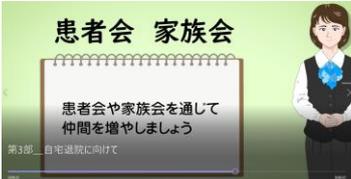
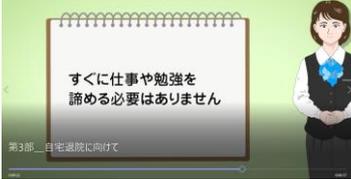
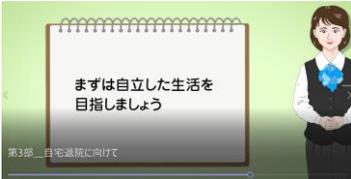
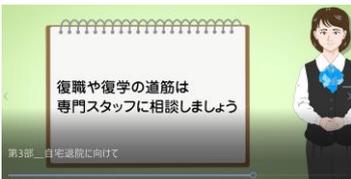
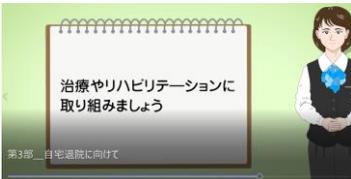
映像	内容
	<p style="text-align: center;">第3部</p> <p style="text-align: center;">自宅退院に向けて ～退院時にお伝えしたいこと～</p> <p style="text-align: center;">*左端の数字は、開始からの経過時間を示しています。</p>
    	<p>-0分39秒 医療ソーシャルワーカー</p> <p>こんにちは。医療ソーシャルワーカーの佐藤です。 今回は、病院を離れて自宅に戻る際に大切なこと、それから、退院後の生活についてお伝えしたいことをお話します。</p> <p>退院が待ち遠しい！ でも、いざ退院となると、病気のことや、身の回りのこと、それから、介護のこと、医療費や生活費のこと、仕事はどうするか、趣味のことなど、解決しなければならない様々な問題が、頭の中を駆け巡って、不安な気持ちになるのではないのでしょうか。</p> <p>そんな時は、どうか、一人で悩まないで、私たちのような相談窓口を利用して下さい。 また、皆さんのために用意されている、いろいろな制度、それらを活用しない手はありません。</p> <p>ただし、制度については、患者さんの後遺症や年齢などによって、利用できる制度そのものや窓口が違います。そこで、医療相談室などの病院内の担当部署で、私たち、医療ソーシャルワーカーなどに、遠慮なく相談して下さい。</p>

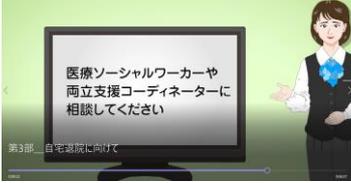
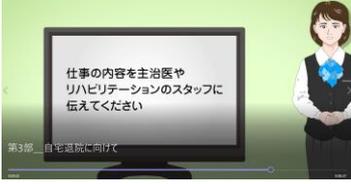
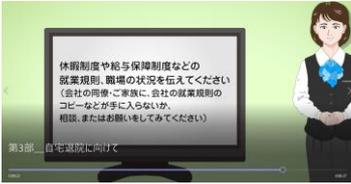
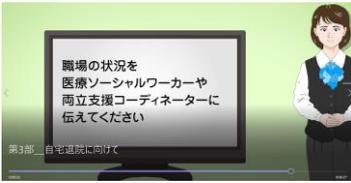
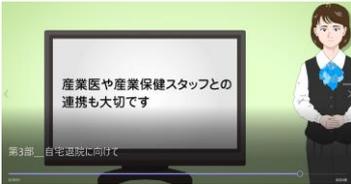
映像	内容
	<p>-2分5秒</p> <p>患者 あ、質問してもよろしいでしょうか。</p> <p>医療ソーシャルワーカー はい、何でしょう。</p> <p>患者 私は、この病院での治療が2週間ほどで終わりで、主治医の先生から、そろそろ退院後のことを考えておくように言われました。でも、私の家のつくりのこともあるし、いつも介護してくれる家族がいませんので、いまずぐには家に帰ることができません。どうしたらいいのでしょうか。</p> <p>医療ソーシャルワーカー そうですね。ご心配ですね。ご退院に向けて必要な準備について、主治医をはじめ、院内スタッフと連絡、調整を行いながら、退院の時期、活用できる社会資源、介護ができる条件や時期など、いろいろな状況を確認しながら一緒に準備をしていきましょう。ご家族のお話も伺わないといけませんね。</p> <p>患者 そうですか…。今、私がお話したことは、一つの例にすぎません。たとえば患者が10人いれば、不安に思っていることは、10通り、あるいはそれ以上あると思います。それに、利用できる制度の窓口が違うというお話でしたけれど、お役所に行くと、本当に窓口がバラバラみたいで、私たち患者にそれなりの知識がない状態では、話が進まない気がします。その辺がとても不安で…。</p> <p>医療ソーシャルワーカー お気持ちはよくわかります。制度や相談窓口が多いのでご不安ですね。具体的な手続き方法についてもご案内いたします。何でも相談して下さい。</p> <p>患者 わかりました。</p>

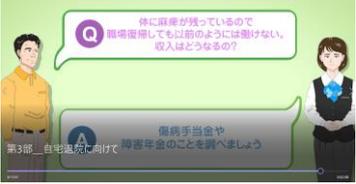
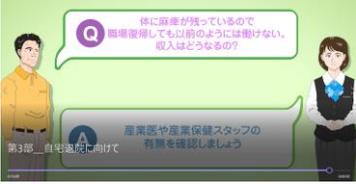
映像	内容
	
	<p>-4分5秒 医療ソーシャルワーカー</p> <p>次は、退院後のお話です。退院後に面倒を見てもらう、かかりつけ医やかかりつけ薬局を持ちましょう。以前からお世話になっているかかりつけ医や薬局をお持ちの方は、退院後にもしっかりお世話になりましょう。もし、かかりつけ医や薬局がない場合は、ご紹介も可能です。</p>
	<p>かかりつけ医に定期的に通院して、再発予防に努め、合併症があればその治療を続けましょう。</p> <p>皆さんの病気の状態や治療については、かかりつけ医に相談し、薬のことは、かかりつけ薬局の薬剤師に相談しましょう。</p>
	<p>-5分2秒</p> <p>次は、リハビリテーションについてです。身体機能の回復や維持のために、退院してからも、リハビリテーションを続けましょう。</p>
	<p>リハビリテーションと一口に言っても、医療機関のほかデイサービスやデイケアセンターなどで実施するものや、自宅でする訪問リハビリテーションなど、いろいろなタイプがあり、その手続きも違います。それに、脳卒中を発症してからどれくらい過ぎているか、後遺症の種類はどうか、年齢、介護認定の有無、障害者手帳の有無などで、利用できるリハビリテーションの内容も異なるのです。</p>
	
	<p>ですから、退院後のリハビリテーションをどうするのか、退院する前に、病院で、主治医や医療ソーシャルワーカー、リハビリテーション担当の先生に相談しておきましょう。</p>
	

映像	内容
	<p>-6分18秒 医療ソーシャルワーカー ここで、障害について、少しお話しておきたいと思います。</p> <p>脳卒中の後遺症により、手足の麻痺や嚥下機能、つまり飲み込む機能の障害だけでなく、失語症や注意力の低下など、一見して分かりにくい高次脳機能障害と呼ばれる障害もあります。</p> <p>万が一、障害が残ってしまったら、悲観的なお気持ちになるかもしれませんが、ご自身の努力や、周囲の方の協力によって、さらにはいろいろな制度を活用して、何とか、障害を補って、日常生活、社会生活を取り戻しましょう。</p> <p>障害の種類によって、対処法や利用できる制度などが違います。介護保険や障害者総合支援法などを活用できるかもしれません。ですから、これらへの対応については、主治医や医療ソーシャルワーカーにご相談下さい。</p> <p>また、長い時間をかけて、障害が改善されていく可能性もあります。ですから、暮らしの中に、リハビリテーションを取り入れましょう。</p>
	<p>-7分48秒 次に、障害者のための支援制度についてです。</p>

映像	内容
	<p>ある程度以上の手足の麻痺、また、呂律が回らない、あるいは食事や水分を飲みこむことの障害や、失語症などの高次脳機能障害が、一定期間を過ぎても残っている場合は、申請して認められると、障害者のための介護や訓練、住環境の整備などの障害者福祉サービスを利用することができます。</p>
	<p>障害者のための相談窓口があり、障害者のための福祉サービスには就労支援や医療費助成、特別障害者手当など、介護保険にはないサービスもあります。</p>
	<p>退院される前に、障害者のための福祉サービスを利用できるかどうか、またどうすれば申請できるのかということについて、担当医や医療ソーシャルワーカーに、遠慮なく相談して下さい。</p>
	<p>-9分6秒</p>
	<p>ここで、相談について、少しアドバイスさせていただきます。皆さんが相談をしたいと思われたら、看護師、医師、リハビリテーションスタッフなど、身近なスタッフに声をかけて、担当者につないでもらいましょう。</p>
	<p>それから、相談する時は、退院してからの暮らしを具体的にイメージして、自分はどうしたいのか、家族はどう思っているのかを伝えることも大切です。皆さんの相談に対応してくれる専門職の人たちと、一緒に解決策を見つけましょう。</p>

映 像	内 容
 <p>患者会と家族会について</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>  <p>患者会 家族会</p> <p>悩みを分かち合い、 体験を仲間から学び、 今後の暮らしに活かす</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>  <p>患者会 家族会</p> <p>患者会や家族会を通して 仲間を増やしましょう</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>	<p>-9分56秒</p> <p>脳卒中を経験した方々が情報交換をする集まりとして、患者会や家族会があります。</p> <p>患者会や家族会に参加することによって、悩みを分かち合い、体験を仲間から学び、今後の暮らしに活かすことができます。また、皆さんの体験がほかの人に役立つこともあります。患者会の中には、一緒に趣味を楽しんだり、旅行したりしている集まりもあります。</p> <p>ただ、患者会・家族会は数がそれほど多くありません。ですから、お住まいの地域にない場合があります。その場合は、日本脳卒中協会のホームページを見たり、入院していた病院や役所の相談窓口などで、尋ねてみて下さい。</p>
 <p>仕事や勉強の再開について</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>  <p>すぐに仕事や勉強を 諦める必要はありません</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>  <p>まずは自立した生活を 目指しましょう</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>  <p>復職や復学の道筋は 専門スタッフに相談しましょう</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>  <p>治療やリハビリテーションに 取り組みましょう</p> <p>第3部_自宅退院に向けて</p>	<p>-10分59秒</p> <p>次に、社会復帰についてのお話です。</p> <p>脳卒中になったからといって、ああ、もうダメだ、などと、仕事や勉強を諦める必要はありません。焦らずに、ゆっくりと考えましょう。</p> <p>まずは、日常生活ができることを目指しましょう。その上で、ご自身でしっかりと健康管理ができるようにしましょう。あまりに急いで社会復帰を目指しても、長続きはしないものです。</p> <p>復職や復学への道は、決して閉ざされているわけではありません。病院にいる間に、専門スタッフに相談することをお勧めします。</p> <p>そして、復職や復学をするためのハードルをクリアできるよう、治療やリハビリテーションに取り組みましょう。</p>

映像	内容
     	<p>-11分56秒</p> <p>実際に、皆さんが仕事を再開するに当たっては、厚生労働省の、「治療と仕事の両立支援」という取り組みがあります。</p> <p>そのサポーターとして、多くの医療機関に、私たちのような医療ソーシャルワーカーがいて、また両立支援コーディネーターも配置されつつあります。遠慮なく相談して下さい。</p> <p>また、ご自身が、脳卒中を発症する前にされていた仕事の内容を、詳しく主治医やリハビリテーションのスタッフに伝えて下さい。そして、その作業が可能かどうか、どうすれば安全に作業できるかなどの工夫を一緒に考えましょう。元通りの仕事が無理なケースもあると思いますが、その場合、選択肢は他にもありますので、一緒に考えていきましょう。</p> <p>さらに、職場の就業規則を確認しましょう。休暇制度や給与保障制度などは、職場によって異なります。皆さんの会社ではどうなっているのかを、医療ソーシャルワーカーや両立支援コーディネーターに伝えて下さい。</p> <p>ところで、元の職場にいる上司や同僚は大切です。その一方で、職場でサポートしてくれる同僚に、無理がかかりすぎないように、お互いさまの精神が重要です。職場の状況を、医療ソーシャルワーカーや両立支援コーディネーターに伝えて下さい。</p> <p>従業員数が50人以上の職場には、産業医や産業保健スタッフがあります。皆さんの職場に、そういう方がいれば、私たち、医療機関の医療ソーシャルワーカーや両立支援コーディネーターからも仕事の再開に向けたサポート体制の相談が可能です。</p>

映像	内容
  	<p>- 14分14秒</p> <p>患者 あ、お尋ねしてもよろしいでしょうか。</p> <p>医療ソーシャルワーカー はい、どうぞ。</p> <p>患者 私は、体の左側に麻痺が残っているので、職場に復帰しても、以前のように、働けないと思います。となると、私の収入は、どうなるのでしょうか。</p> <p>医療ソーシャルワーカー 治療により働くことができない、収入が途絶える場合に対しては、会社員の場合には、勤務先の健康保険から給付される傷病手当金があります。また、長期間の治療やリハビリテーションを経過したのちに障害が残る場合には、障害年金の申し込みが可能な場合があります。詳しくその内容を調べていきましょう。</p> <p>具体的な働き方については、復職までに職場としっかり相談しておく必要があります。その際、職場に産業医や産業保健スタッフがいるかどうか、確認しておいてください。</p> <p>患者 わかりました。</p> <p>医療ソーシャルワーカー 以上、退院に向けての準備と、退院してからの生活について、お話をいたしました。</p> <p>何事も、ご自身やご家族だけで悩まず、まずは相談、このことを心に留めておいて下さいね。</p>